

2013年(平成25)12月

カルメル 霊性センターニュース



東方三博士の礼拝 15世紀 無名の巨匠

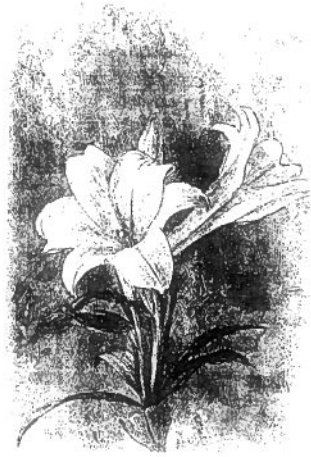
2013年12月

293号

目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
諸所の企画案内	29
年間購読(郵送)のご案内	40
編集後記	41

心の泉





第二卷

第一章 内的なまじわり

7 潜心の習慣

他人の話や批評によらず、そのものの価値によって物事を評価する人こそ、真の知恵者であり、人間よりも神によって導かれている人である。内的な生活を知り、物事を外部だけで判断しない人は、信心の修行のために特別な場所と時とを探する必要を感じない。

内的生活を営んでいる人は、たやすく潜心することができる。なぜならば、外部のことに押し流されることがないからである。また、日々の仕事や一定期間の務めも、さまたげにはならない。彼らは事が起こると、いつもそれに対処しうるからである。心がよく整い、おさまっている人は、他人の騒がしいおこないや、心ないふるまいに気をとめない。人は、世間の事柄にかかわればかかわるほど、さまたげられて気が散るのである。

8 世俗を捨てる

まっすぐな心を持ち、清められた精神の所有者であるなら、あなたはすべてのことからよい面をくみ取って自分に役立てることができる。ところがあなたは、いろいろなことを嫌がり、惑わされる。それはあなたがまだ自分自身に死にきっていないからである。世俗の事柄に対するよこしまな執着ほど、人間の心を汚し、また縛るものはない。あなたが世俗の慰めを捨てるならば、天に目を上げ、しばしば心のうちに、大きな喜びを感じるであろう。

神と親しく生きるために — 12 —

キリスト、平和の君

心から世界の平和を祈りたい。

世界の平和、それは、

一人ひとりの心のなかからまずはじまります。

自分の中の分裂に気づき、

和解をもたらしてくださるみことばの誕生を日々願い

キリストと親しく生きることによって与えられる

キリストの平和。

毎日がキリスト者の心のうちで

クリスマス「キリストの誕生」！

毎日

私たちはベツレヘムのメッセージを世界に告げるよう呼ばれています。



「神がこの地上をご覧になるとき、神は涙を流される。力への渴望が人々の心をとらえ、人間の精神を蝕んでいるから」とナーウエンは言う。*

まわりの人が自分に気づいてくれるか、評判は？常に気を配る。隣人より自分は優れているか劣っているか、強いか弱いか、早いか遅いか・・・いつも自分に問う。

自分の存在、行動、活動範囲を少しでも自分の思うようにできそうなら、どんな力でも手に入れたと思う。自分の安全が脅かされるとなれば、すぐに手短にある棒切れや銃をつかみ、たとえ他の何千もの生き残れない人がいても、自分が生き残ることが先決だと主張する。

私は、自分の棒切れや銃が何であるかをよく心得ています。

それは、より影響力のある友人をもちだすことだったり、お金や地位や学位・他の人にはないわずかばかりの才能・知識であったり、時には冷ややかな目つきだったりします。・

・自分がそうときづくよりも前に、友人を押しつけてしまいます。

神は、自分の存在を示したいがために

力を利用するこのような私たちを目にするたびに、涙を流される。それは、神から、他の人々から、私たちを引き離し、分裂をおこすものにしてしまうから。*

神よ、私をあなたの平和の使いにしてください。

愛なる聖霊、あなたを愛します…

失われやすい、私たちの愛を、あなたの愛の息吹によってよみがえらせてください。

～友の祈り～

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

* 『まことの力への道』ナーウエン著、あめんどう社

人を赦す (3)

くのり 彰

しかし、私は言うておく。悪人に手向かってはならない。だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい。

自分に何か落ち度があったり、相手を怒らすようなことを言ったりしたならば別だが、何の理由もなく、だれかがあなたを突然殴ったり、蹴飛ばしたりしたなら、そのような振る舞いに、あなたは驚くと共に、腹を立てるのではないだろうか。「私が一体何をしたのか」と。相手がヤクザであれば、身の危険を感じて、手向かわないかもしれないが、普通は殴り返すか蹴り返すか、または大声で罵倒することだろう。

キリストは、このような「やられたらやり返す」自然的動物的反応を超えるよう呼びかけておられる。「だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けよ」と。子供の間では、叩かれると「倍返し」が普通で、ついには取っ組み合いの喧嘩となる。キリストの場合は、ただ手向かわないだけでない。さらに左の頬をも向けるのである。これは、どういうことなのであろうか。

浄土真宗のみょうこうにん妙好人、因幡の源左(1842～1930)のエピソードは、興味深い。彼は、生前から妙好人と噂されていた。ある時、一人の僧が、本物かどうか確かめにやって来た。折しも源三は、畑で仕事をしている。そこでその僧は、後ろからそっと近づき、思いっきり彼の尻をけとばした。よろよろと地面に倒れたが、何も言わず起き上がり、仕事を続けている。「あれっ」と思いつつも、「一回ぐらいでは」と、また後ろから近づき、再び彼の尻をけとばした。またよろよろと倒れたが、今度も何も言わず起き上がり、仕事を続けている。「これはどうしたことか」と驚きながらも、また後ろから近づき、三たび、彼の尻をけとばした。しかし、今回もよろよろと地面に倒れたが、何も言わず起き上がり、仕事を続けている。僧は驚き入って、源三にたずねた。「どうしてあなたは、こんなことをされて怒らないのか」と。すると、彼は答えた。「私は、前世において、償いきれないほどたくさん悪いことをしてしまいました。今日、あなたが私を三度も蹴飛ばしてくれたお蔭で、前世の罪滅ぼしのできたのです。有難いことです」と合掌し、礼を述べたと言う。

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (75)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

説教しなかった説教者 (2)

「彼は、統治に対する大きな賜物も持っていました。なぜなら、彼が持っていた深い優しさや穏やかさをまったく失うことなく、ちょうど良い時に、目下の者の過ちを厳しく叱り、矯正することができたからです。特にこの修道院では特筆すべきことが起こりました。その時、彼は心の大きさと平和を皆に示しました。そのような時にもいつもの心を失わなかったからです。

復活祭の日々のある日、説教が予告され、教会には町の人々、創立者たちや他の人々が大勢来ていました。聖なる神父は、他の修道者たちと共に、歌ミサを歌うために、歌隊所にいました。説教の時間が迫ってきたので、彼は私を、説教しなければならない神父に時間であると告げるように、彼の所へ遣わしました。説教する神父は、説教できないと答えました。この答えを二度、十字架のヨハネ神父に持って行った時、彼は、とても穏やかに、その神父が自分の犯した過ちをよく考えるように、またとても慎みのある言葉で、何ら動揺もせず、彼にそのような過ちを犯してはいけないと言っていたと言うように、私を三たび、彼のもとに遣わしました。そして私は、三たび、説教すべきであった神父の所へ行きましたが、彼は、説教できないとヨハネ神父の所へ言いに来ようとは決してしませんでした。聖人は、彼が病気のためではなく、自分への反感からか機嫌が悪かったからかで説教しなかったことを知っていたにもかかわらず、決して横柄な態度を取ることもなく、何の動揺も示すことなく、また彼に何か言うために歌隊所から降りることもなく、彼をそのままにし、ミサを進行させるよう司式司祭に告げるよう命じました。そして平和と静けさのうちに、この事件に関し、ひと言も言うことなく、二週間ほど時が経ちました。人々がこの神父を探しに、あるいは尋ねて来た時、聖なる神父は、彼が病気であり、降りて来られないと答えました。こうして彼は、食堂での矯正集会まで待ちました。そこで聖人は、彼の罪をとがめ、非常に意味深い、非常に慎み深い言葉で、彼を叱ったのです。

彼は、時が過ぎ去るままにしました。本人が腹を立てているならば、非難は何の益ももたらさないどころか、大きな害をもたらすであろうと。忍耐をもって、神に彼をゆだねながら、やがて彼が謙遜に叱責を受け取り、その出来事に応じた償いをするにふさわしい時を待ったのです。その後、私は、彼から聞きました。この聖なる神父についてなされた多くの賛辞の一つは、彼のものであると」。

「だから、あなたがたも用意していなさい。人の子は思いがけないときに来る」(マタイ 24, 44)。

「用意していなさい」、とイエスが勧告しています。無論、「主が来られる」、その時のために用意しているのですが、それでは、どのようにして準備していたら良いのでしょうか。それを示唆するのは、少し前に出てきたお言葉ではないのでしょうか。「畑に二人の男がいれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。二人の女が臼をひいていれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される」。男性は、畑で汗水流して家族を養う日常の糧を獲得するために労働にいそしむ、女性は、家事に心を込めて従事し、家族の生活、健康に配慮する、その平凡な日常的な仕事、労働を、軽く見たり、ましてや放棄してではなく、むしろ、その生活を「地に足をつけて」しっかりと果たす、しかし、「しっかりと果たす」、それは、罪に汚染されたわたしたちの価値観、展望、気持ち、欲望に従ってではなく、なぜなら、わたしたちの判断能力も、どうしても、自己中心的になってしまいます。それで、上から来る照らし、神の望みから見た「しっかりと果たす」でなければなりません。そして、今ひとつは、人間たちだけにではなく、同じ被造界に生きる生命を与えられたものすべてへの連帯に開かれている「しっかりと果たす」が必要です。

「一人は連れて行かれ、もう一人は残される」、この分岐点となるのはなんなのでしょうか。神の恣意的選択なののでしょうか。それとも、働いている人たちの中に何かの違いがあるのでしょうか。確かに、違いは、現実を生きている人間の心構えにあります。どのような心の態度なのか、第二バチカン公会議の文献、「現代世界憲章」にヒントを見いだします。の中から引用しましょう。「新しい地に対する期待は、現在のこの地を開拓する努力を弱めるものであってはならず、かえってそれを励ますものでなければならない。…したがって地上の進歩は、キリストの国の発展からはっきり区別されなければならないが、人間社会の向上に寄与することができる限り、神の国にとっても重要である。事実、われわれは、人間の尊厳、兄弟的交わり、自由など、すなわち、人間の本性と努力のすばらしい実のりであるこれらすべての価値あることを、主の霊において、また、主のおきてに従って、地上に広めた後、それらをあらゆる汚れから清められたもの、光り輝くもの、変容したものとして再び見いだすであろう」(39c)。ルカ渡辺幹夫

待降節 第2主日(A)

みことばのひびき

「その方は、聖霊と日であなたたちに洗礼をお授けになる。」 (マタイ3:1~12)

待降節は、主がおいでになるのをお待ちする季節です。私たちは愛するお方を熱心に待ちます。私たちは愛する人を迎え入れたいとき、出会いの瞬間の準備をします。待降節の第2主日では主の到来を準備するように教えています。本日の典礼は、回心、個人的な心の変化、変換、転換について語っています。回心は自分の罪を悲しむというよりは、それ以上のものです；それはよりよい者へ変化する呼びかけです。本日の福音でマタイは、イエスを世界に紹介する洗礼者ヨハネを示しています。

ヨハネは神の国が近づいていることを知らせ、神の国の完成であるイエスを指し示します。同時に神の国は本来、人々が神とまた自分たちお互いと完全な調和のうちあり、神のイメージの中で生きるという、関係の複合を指しています。イエスは神の国とは目に見えない御父の完全なイメージを示すことであると宣言し、私たちがイエスに親密に従うように招いておられます。イエスは、ご自分は道であり、真理であり、生命であり、全ての人を御父に連れていくと言われます。イエスの中で、イエスを通して、イエスと共に生きるとは、御父と完全に一致する私たちの存在の究極のゴールに到達することです。これら全てはヨハネのこの単純な宣言に含まれ、後にイエスご自身によって繰り返されることです。おびたしい人たちがユダヤやヨルダン川あたりから、回心への力強い呼びかけを聞くためにやって来ました。自分たちの罪深い生活を心から悔い改めた人たちは罪を認め、清めの典礼、すなわちヨルダン川での洗礼を受けました。

本日の福音の終わりのほうで、自分は悔い改めのために水で洗礼を受けるが、自分よりずっと優れている方が後から来られ、自分はその履物をお脱がせする値打ちもない、という洗礼者ヨハネの言葉を聞きます。このお方は聖霊と火で洗礼をお授けになります。ヨハネはこのようにして聖霊で洗礼を受けるイエスのほうに人々を導きます。聖霊は最終的には聖霊降臨の日に来て来ました。このことはイエスが説かれる悔い改めと神のみ国のしるしとなります。私たちは地上に到来している神の霊的な国を天にあるように見ることはできませんが、洗礼の秘跡を通して、目に見えないものの目に見えるイメージとなっているカトリック教会と一体であるキリストの神秘体、すなわち地上の神の国に入れて頂けると信じています。主の道を私たちの生活の中で準備するとき、聖霊の清めの火を通して示される神なる御父のお恵みに向けて、自分の状態を見直すように召されています。待降節の間、私たちは自分の罪を悔い改めるように呼ばれています。絶え間なく祈り、償いをし、キリストにおける私たちの兄弟姉妹に対して愛の行いをするように呼ばれています。待降節の残りの日々、洗礼者ヨハネのメッセージを心にとめ、私たちの心の道をまっすぐにするために、心から真に罪を悔い改めることにおゆだねしましょう。

(Sr. Paulina)

「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、他の方を待たなければなりませんか」(マタイ 11, 3)。

洗礼者ヨハネは、ヘロデの逸脱した結婚を指弾したため、牢に捕えられています。そこから、弟子をイエスのところに送って、このように尋ねさせます。ヨハネは、弟子たちが、イエスのもとから、どんな回答を持ち帰るであろうと期待していたのでしょうか。現代でも、人々は、教会に、また、わたしたちキリスト者一人ひとりに同じような問いをしているのではないのでしょうか。「来るべき方は、あなた達が信じている方でしょうか。それとも、他の方を待たねばなりませんか」。わたしたちは、どのように答えているのでしょうか。わたしたちが信じている方イエスが、唯一の究極の救い主、この方をおいて他には、救いはないと知っています。しかし、それは、頭で、知識として知っているだけで、わたしたちの心と体、生活のすべてで知っていると言っているのですか。

イエスは、ヨハネの弟子の質問に、教えとか理論を述べるのではなく、ご自分が何をしているか、どのように生きているかを、示されました。「行って、見聞きしていることをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、…貧しい人は福音を告げ知らされている」と。わたしたちも、イエスが究極的な救い主である、と答えることができるのは、イエスの生き方に共鳴された生活態度に裏打ちされているからなのです。イタリアのトリノの近郊、コトレンゴと言うところに一つの施設があります。それは、一つの町のように、その住人の中心は、重度の身体障害者。ここを訪れた人たちは、彼らの障害の厳しさにショックを受けるそうです。どうして、このような不幸を背負わされているのか。答えようがありません。この人たちを支える中心は、シスターたちです。身障者たちの汚れ物の洗濯に一生をささげたシスターに、ある娘さんが、言いました。「とうてい、こんな生活は、一日も耐えられない」。シスターは答えました。「わたしにも。もし、イエスが、いらっしやらないとするなら」。「目の見えない人、足の不自由な人、重い皮膚病を患っている人、耳の聞こえない人」、もし、わたしたちが、そのような人たちの苦しみを少しでも軽減し、共に歩む行動を起し、しかも、その行動を、救い主イエスに出会い、救われている自分を味わい、感謝して生きている証であるなら、わたしたちの証言にも力があることでしょう。 ルカ 渡辺幹夫

待降節第四主日 (A) (マタイ 1:18-25)

今日、主の降誕祭を前にして迎える待降節第四主日に、私たちは世に来られる幼子イエスの誕生を待つ、恵み溢れるおとめマリアの喜びに心を向けます。救い主の誕生への期待と準備が今日の主日のテーマです。2000年余り前に主の誕生を大きな期待をもって迎え、喜びに満ちて祝ったことが今日の様々のクリスマス行事、贈り物、パーティ、離れて過ごしている家族が一堂に会して喜び合うこの上なく楽しい集いの基になっています。人々が長い間待ちこがれていたこの王様は、この世の華やかさや権力には無関係の貧しさの中にお生まれになりました。信仰は、わたしたち自身をこの王様の誕生にふさわしい場所に準備するよう勧めます。また世の終わりにイエスが再臨され、いかに自分の信仰を生き抜いてきたかをお尋ねになることも知っています。準備しておきましょう。福音書はイエスがベトレヘムで誕生されたときの様子を述べています。ヨセフは夢の中でマリアが聖霊によって身ごもっていることを知らされます。神の救いのご計画の一人となったヨセフは、神によって特別に選ばれ、神の道具となり、主のご降誕の神秘に加わり、聖家族を導く父の役目を引き受けます。

今日のみことばはイエスが聖霊によって一人のおとめからお生まれになったことを強調しています。当時ユダヤでは聖霊には明確な働きがあると考えられていました；聖霊は人に神の真理をもたらすもの。聖霊は預言者たちに何を語り何をすべきかを教えるもの。そしてまた聖霊は人に真理を真理であると認識させるもの。ユダヤの人々は神の創造の業に聖霊を結び合わせました。聖霊を通して神は全てのものを創造された、と。エゼキエルのような預言者たちは墮落した人間を再び主に立ち返らせるのは聖霊であるとしていました。典礼は、再び神のいのちを回復するために、イエスが聖霊の力によってこの世に来られたことを理解するよう勧めます。イエスはわたしたちに神はどのようなお方か、またわたしたちはその神に対してどうあるべきかを解らせてくださいます。

神のお告げの希望はヨセフです。アハズ王とは対照的にヨセフは、おとめマリアのうちに宿られた御子について困惑するようないし見てもゆるがない信仰を持ち、様々な困難な問題があったにも関わらず自分の責任を引き受けます。そこに神のご意志、計らいを見たからです。マタイは預言者イザヤのことばを引用しその子の名はインマヌエル（“神は我々と共におられる”という意味）と呼ばれると言っています。イエスは父である神のこの世における現存を顕しています。ヨハネはその福音書の初めに“言は肉となって、わたしたちの間にやどられた。”と言っています。神の現存、神が共にいて下さることの素晴らしさは、日々の生活の中でわたしたちがイエスに結ばれ、イエスとの親しい交わりの中でイエスの福音を生きることによって実感できます。このクリスマス、一人一人のうちにイエスが真実にお生まれになりますように！主はわたしたちの心にお入りになりたいのです。わたしたちも父聖ヨセフ、母聖マリアのように全信頼を神のみ旨に置いて委ねましょう。

ほんとうのよいクリスマスと聖霊に満ちた新しい年、2014年をお迎えになりますように！

(Sr. Paulina)

もう半月以上もずっと心を悩ませていることがあります。

抱え持ったままあれこれと思いあぐねて、今もって落ち着きどころはありません。

「英国の作家H・G・ウェルズは原爆が登場するずっと前、『戦争をなくする一つの方法は、武器をとことんまで発展させることだ』と言ったそうだ」

朝、いつものように目を通した天声人語の一節です。核不使用声明に日本が署名したという記述の中にあっただけなのですが、この一文を読んだときの私のありさまを、どう云い表わしたらいいのでしょうか。ありていに云えば、脳天を一撃されたというのでしょうか。心に深く入ったとか、胸が痛んだといった類ではなく、もっと即物的な外的な衝撃を受けました。

いきなりだったので暫くは脳しんとう状態でした。とりあえず新聞を切り抜いてノオトに挿んだまではよかったのですが、その後身の内に深く巣くって、それこそ寝ても覚めてもとりつかれたようになり、その言葉から離れられなくなってしまいました。さまざまにあれやこれやと考えこみ、思いをめぐらせ、次々と心の奥底から浮かび上がってくるものに押され押されて、何かいっばいいいっばいの日々が続きました。

核廃絶の問題とか、人間と戦争という不可分な問題とか、「福音」という言葉自体が戦争の勝利のよろこびの意味であったことなど、きれぎれにめまぐるしく追い続け、友人にどう思うかとふっかけて、熱っぽくしつこく食い下がり、それから、私自身子どもなりに体験した、今も残る戦争の痛みを辿り、思いもよらずに涙したり、また、戦死されたお父さんの顔を一度も見たことがない、その身体を一度も触れたことがないという、敬愛する仲間のことなどが心を占めて苦しくしました。何かに詫びたい気持ちが心の底にありました。

戦争をなくすために武器をとことんまで発展させるという逆説、人類への皮肉というか、諧謔というか、説論というか・・正鵠を得ているというのか。

しかし、今思ってみるのです。

人類のこと、人間のことは、即ち私のことです。人間のすること、人間に起こることは私に無関係なものはないのだと身にしみて知っています。そうであるなら実はこのことも私のことではないだろうかと行き着くのです。

今、或る状況に思いを致し感深くあります。

とことん自分を恃み尽くさないことには、自分ではないものとひとつに触れることができなかつたこと（神さまに出会えなかつたこと）。魂の奥底ではいのちがけで求め望んでいたに違いないのに、そんなことは少しもわかろうとはせずに、自分だ自分だと頑張って頑張って・・・。

あげくの果てに激しい遭遇を得て、衝突してすくい取られて、やっと初めて罪深いわが身と出会いひれ伏したこと。どんなに云い聞かされ諭されても分かろうとせず、とことんやり尽くさないことにはどうにもならない愚かさとか、聞き分けがないとか、頭が悪いとか・・・度し難い身とか。

とことん武器を発展させるとは、とことん自らを傷つけることです。私たちはすでにそのことを成し遂げてしまっているのではないのでしょうか。

天声人語の同欄にあったスウェーデンのパメル元首相の言葉「どの国の政府であれ、責任ある地位に就く者は、すべて広島を訪れることを義務づけるべきだ」は至言です。

戦争というものを人間がほんとうになくすことができたら、そこには私ではないもの、私を超えるものの働きが必ず必ずある筈です。云いかえれば神さまの導きを絶対に必要とするのです。誰もが胸の内に確かにもっている悲願を、神さまに届けねばならないのです。その方向を見失いたくありません。

後日、どう思うかとふっかけ、食い下がったくだんの友人から電話がありました。こんなことを言いました。

あなたほどの切実な関心はないけれど、つまるところ一人ひとりにかかってくる問題と思う。でも、戦争はなくなれないと思っているよ。せめて、とことん発展させた武器を使う勇気が我々にないようにと、願うしかないね。エゴイズムって生半可じゃないよ。

新聞のコラムのたった数行、切り抜いてノオトに挿んだのは、結局は私自身の内に挿んだのでした。その紙片は落ちたり失われたりすることはないようです。

いのちの言葉 12月

どうか、主があなたがたを、お互いの愛とすべての人への愛とで、豊かに満ちあふれさせてくださいますように。

(テサロニケの信徒への手紙ー3・12)

これは聖パウロらしい言葉で、自らが築いた共同体の人々を励ますと同時に、共同体の上に主の特別な恵みが注がれるよう祈り求めています。(*1)

パウロはここで、テサロニケの信徒たちが相互の愛をたえず豊かに育てていかれるよう、恵みを願い求めています。それは共同体の中に相互愛がないことを暗に咎めているわけではありません。むしろ、愛そのものに備わっている法則、つまり「常に成長していく」という法則に目を向けるよう促しているのです。

どうか、主があなたがたを、お互いの愛とすべての人への愛とで、豊かに満ちあふれさせてくださいますように。

愛はキリスト者の生活の中心であるため、もし愛が成長していかないなら、キリスト者の生活全体がその影響を受けて、次第に活力を失い、ついには姿を消してしまうでしょう。

「隣人を愛しなさい」という掟を、光の中で理解しただけでは不十分でしょう。また、私たちが福音を受け入れて回心した時に、情熱と内面的促しを体験したとしても、まだ足りません。私たちはたえずその愛を新鮮に、生き生きと、行いを伴いながら成長させていく必要があります。それが可能になるのは、私たちが寛大な心で積極的に、日々のあらゆる出来事をチャンスとして生かしていく時です。

どうか、主があなたがたを、お互いの愛とすべての人への愛とで、豊かに満ちあふれさせてくださいますように。

キリスト者共同体は、本当の家族のように温かく生き生きしているものとパウロは考えています。

そのため彼は、共同体が陥りやすい個人主義や表面的な生き方、生ぬるさなどの危険に気をつけるよう呼びかけています。

さらに、これと深いつながりのある、もう一つの大きな危険に対しても、パウロは注意を促しています。それは、自分たちの間にある平穩無事な生活に安住して、まわりに目を向けなくなることです。

パウロは共同体が開かれたものであるよう望んでいます。同じ信仰を持つ兄弟を愛すると同時に、すべての人に向かっていくこと、あらゆる人の問題と必要性にたえず敏感であることは、愛の特徴だからです。どんな人をも受け入れ、かけ橋を築き、相

手の良い点に目をとめ、善意あるすべての人と思いを一つにして、力を合わせていかれるのは、まさしく愛のなす業です。

どうか、主があなたがたを、お互いの愛とすべての人への愛とで、豊かに満ちあふれさせてくださいますように。

では、今月のいのちの言葉をどのように生きたらよいでしょうか。

私達も、自分の家庭や職場、共同体、教会の諸団体や小教区の中で、互いの愛を育むように努めましょう。

このみ言葉は、私達が豊かな愛を抱くよう求めています。つまり、ありきたりの尺度にとどまらない愛、私達のエゴが巧みに築き上げる様々な障壁を乗り越える愛を要求しています。もし愛の特徴（寛大さ、理解、互いに受け入れ合うこと、忍耐、人に仕えようとする姿勢、隣人に欠けているように見える点を補う思いやり、物質的な分かち合いなど）をいくつか思い出すなら、実践のチャンスはたくさんあることに気がつくでしょう。

私達の共同体にこのような相互愛の雰囲気があるなら、その温かさは確実に周囲の人々に伝わっていくでしょう。そして、まだキリスト教的生活を知らない人々も、その魅力に引き寄せられ、知らず知らずのうちに、自分も同じ家族の一員だと感じるようになるでしょう。

キアラ・ルービック

*1 エフェソ3・18、フィリピ1・9等参照

* 今月の言葉は1994年11月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ

いのちの言葉の集い

関東 12月8日(日) 13:30~ 神奈川 かつりつ藤沢教会 204号室
(一緒にクリスマスをお祝いします。)

(週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、藤沢、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)

関西 12月 8日(日) 14:00~ 愛知 瀬戸市本郷町東・喫茶室「遊夢」
12月15日(日) 13:30~ 大阪 かつりつ香里教会

クリスマス会

長崎 12月15日(日) 14:00~16:30 長崎 滑石教会信徒会館

連絡先

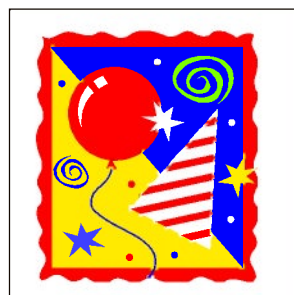
フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ: フォコラーレで検索

<http://focolare.world.cocan.jp/>

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（171）



妬みを超えて

妬みは、簡単に私たちの心に生じます。放蕩息子のたとえでは、弟と娼婦たちが父の財産を食いつぶしてしまったにもかかわらず、戻ってきた弟が盛大な歓迎を受けたことを、兄は妬んでいます（ルカ 15・30 参照）。ぶどう園の労働者のたとえでは、一日中働いた労働者たちは、最後の一時間しか働かなかった者たちも、彼らと同額の報酬を受け取ったことを、妬んでいます（マタ 20・1-16 参照）。けれども、父は兄に言います。「お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部おまえのものだ」（ルカ 15・31）。またぶどう園の主人はこう言います。「なぜあなたたちは、わたしの気前のよさを妬むのか」（マタ 20・15）と。

私たちは、神の限りない寛大さをほんとうに味わうとき、私たちの兄弟や姉妹が受け取る恵みに対しても感謝することでしょう。妬みは、私たちの心の中にどこにもその場を見出すことはできないでしょう。

(0706)

家に迎え入れること

私たちは、失われた兄弟姉妹を、どのように家に迎え入れるのでしょうか。彼らのところに駆け寄り、抱きしめ、キスすることによって。私たちが持っている最高の服を着せ、彼らを最高のお客さまとすることによって。彼らに最高の食事を出し、友達や家族を招き、宴会を催すことによって。そして何よりも重要なことは、弁解や説明を彼らに求めることなく、彼らが私たちと再び共にいることを心から喜び、その喜びを示すことによって（ルカ 15・20-24）。

これが、天の御父が完全であるように、完全であることなのです。自分の正当性や相手への非難や好奇心さえもまったく示すことなく、心から相手を赦すことです。過去はぬぐいさられたのです。大切なことは、現時点であり、私たちの心を満たしているすべては、私たちの兄弟姉妹を再び家に迎え入れることができたことへの感謝だけだということです。

(0703)

(九里 彰訳)

跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

フィリピンの女子跣足カルメル会のシスターたちは全員元気です

2013年11月12日

フィリピンを襲った台風によるひどい大災害にもかかわらず、シスターたちは無事でした。特に、地域全体が大惨事にみまわれたタクロバンには、女子跣足カルメル修道院がありませんでした。シスターたちは、強烈な台風について語り、猛烈な風速の強風を体験しました。多くのシスターたちは、その頃、フィリピンの最初の女子跣足カルメル修道会であるハロの修道院の創立90周年のお祝いに出かけていました。シスターたちは、「私たちの国全体が荒廃してしまいましたから、どうか私たちと共に、私たちのために祈ってください。どうか台風の被災者たちを助けてください。どうも有難うございます」と願ってきています。

男子跣足カルメル会士たちがアルバニアでのミッションを開始

2013年11月15日

男子跣足カルメル会士たちはアルバニアでの宣教を開始しました。パオロ・マリア・バルビアーノ神父（中央イタリア委任地区）、マリアノ・タランティーノ神父（シシリア委任地区）、アドルフォ・スカンドゥラ神父（ヴェニス管区）は、すでにニンシャットの女子跣足カルメル修道院に滞在しており、住む家が借りられるまでそこに留まる予定です。

三人のカルメル会士たちは、現地のカルメル会シスターたちとサペ教区のルシアン・アウグスティニオ司教から大歓迎をうけました。11月1日の祭日には、カテドラルで司教の司式のミサの中で歓迎式典が行われ、三人のカルメル会士は共同司式した司祭たちと参列した信徒たちに紹介されました。

宣教者の第一段階として、マリアノ神父、アドルフォ神父、パオロ・マリア神父は、現地の言葉の習得と適当な仮住まいの物件を見つけることに専念しています。さらに、アルバニアにおける男子跣足カルメル会士の存在について、アウグスティニオ司教と話し合いが進められています。霊性の家の建設も、今進行中であり、近い将来、アルバニアの聖職者、修道者、全住民のための安らぎと霊的育成の場所として、まことの“カルメル山”となることでしょう。

*****絵本のための小さなおはなし*****

「きのことすすらんが合体している絵のお話」

クリスマスの夜でした。プレゼントを世界中の子供たちに配り終えて、疲れてサンタさんが家で寝ています。妖精のララは、サンタさんの身の回りのお手伝いをしています。妖精のお仕事は、神様のお手伝い。いろいろと忙しい神さまのために、天使と組んで地上のお仕事をします。

ララは暖炉に座って、魔法の歌をうたいました。

「ていんく ていんく たあむ たあむ
ていんく たあむ たむ。」

ていんく たあむ たあむ たあむ
ていんく たあむ たむ。」

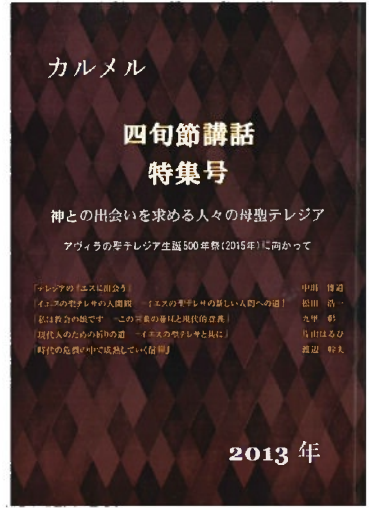
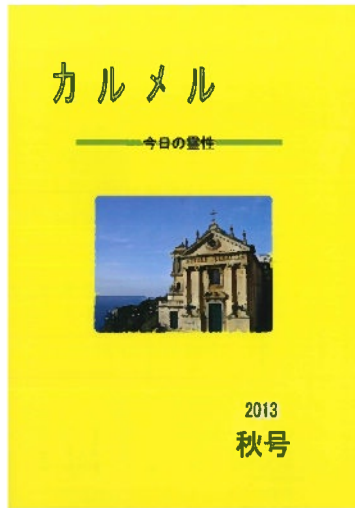
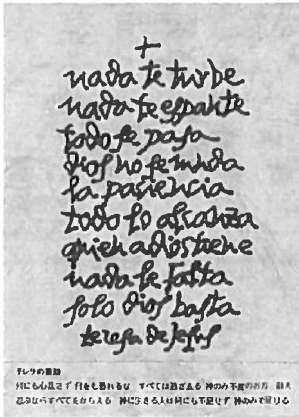
そうすると、妖精の、落ち葉を蜘蛛の糸で縫い合わせた服のポケットから、魔法の不思議なきのこがまず生え出しました。そして、ララがそうっと息を吹きかけると、きのこの根元から春のすすらんが生えました。こうして、冷えや暑さに弱い、かそけき老人にも優しい、春と秋の季節が必ずこの世にあらわれるようになるのです。毎年クリスマスの夜、もっとも一年で暗い日。その夜、ララはそんな儀式をします。クリスマスは子供たちだけの日ではありません。子供たちがやがて大きくなって老人になっても、妖精たちは忘れないのです。



カルメル会の企画案内



「カルメル」
今日の霊性・秋号
四旬節講話特集号



2013 秋 No.350

カルメル 2013 特集号

「神との出会いを求める人々の母 聖テレジア」

砂漠の修道院に入る (6)	私は生まれなかったかもしれない	西行と芭蕉の霊性 (1) ——奥を尋ねる	修道院生活 春夏秋冬 (9)	人を育む霊性 ——エディット・シュタインの教育論 (2)	生活のなかのカルメル 「お鍋の中にも主はおられます」 ——日常を生きる	「お鍋の中にも主はおられます」 ——日常を生きる	修道院の窓から ——一期一会	● 目次 ● ● (今年の特集 イエスの聖テレジアと信仰) ● 信仰を生きる (3) ——アピラの聖テレジアの信仰理解	● 目次 ● ● (今年の特集 イエスの聖テレジアと信仰) ● 信仰を生きる (3) ——アピラの聖テレジアの信仰理解	現代人のための祈りの道 ——イエスの聖テレジアと共に	時代の危機の中で成熟していく信仰
奥村一郎 52	森みさ 46	山畑邦治 38	高橋重幸 32	須沢かおり 26	中山真理 20	中山真理 20	原造 17	九里彰 3	九里彰 3	片山はるひ 37	渡辺幹夫 51
								伊從信子 9	伊從信子 9	九里彰 24	
										松田浩一 12	
										中川博道 2	

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費 (年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+ 送料【700円】計 3,000円) を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

上野毛霊性センター ～'14年3月

黙想企画 ** 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。
2013年度 年間テーマ 「信仰と宣教」
12月 5日 「神の愚かさ、宣教の愚かさ」 福田正範神父
2014年
2月20日 「復活の主の第一の使信」 福田正範神父
2. 金曜黙想会 (毎回金曜日10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。
2014年
1月24日 「カルメルの霊性・聖母マリア」 福田正範神父
3. 奉献生活者の為の黙想会
12月27日(金) 18時～2014年1月5日(日) 古川利雅神父
4. 祭日のミサに参加するために
【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2013年12月24日(火)～25日(水) 《講話なし、夕食なし》



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので、
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789 ※FAX 番号が変更されました。

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

上野毛霊性センター ‘14年4月 ～ ’15年3月

黙想企画 ** 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2014年 4月17日(水)～20日(日)《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2014年12月24日(水)～25日(木)《講話なし、夕食なし》

2. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時)

2014年

6月26日

ベルナルド神父

9月11日

福田正範神父

10月 9日 人となられたみことば

古川利雅神父

11月13日 神に生かされて貧しさを生きる

中川博道神父

12月 4日 無原罪のマリア

渡辺幹夫神父

2015年

3月 5日

福田正範神父

3. 金曜黙想会 カルメルの霊性 (毎回金曜日10時～16時)

2014年

4月11日 ヘルマン・コーヘン

古川利雅神父

7月 4日 カルメル山の聖母

中川博道神父

10月31日 永遠の命への憧れ聖テレジア

渡辺幹夫神父

2015年

1月16日

福田正範神父

4. 奉献生活者の為の黙想会

2014年

8月 1日(金) 18時～ 8月10日(日)

福田正範神父

8月15日(金) 18時～ 8月24日(日)

古川利雅神父

10月10日(金) 18時～10月19日(日)

福田正範神父

12月27日(土) 18時～2015年1月5日(月)

福田正範神父

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士
2014年
4月25日(金) 16時～27日(日) 16時
11月22日(土) 15時～24日(月・振休) 16時
6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士
2014年
9月21日(土) 15時～23日(月・休) 16時
7. 聖週間前の黙想会 福田正範神父
2014年
4月 2日(水) 18時～4月 4日(金) 16時
8. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
2014年
5月23日(金) 20時～25日(日) 16時
11月 7日(金) 20時～ 9日(日) 16時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので、
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789 ※FAX 番号が変更されました。

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

木曜黙想会

2013年度年間テーマ《信仰と宗教》

「神の愚かさ、宣教の愚かさ」

日時： 2013年12月5日（木） 10時～16時

指導： 福田 正範 師（カルメル会上野毛修道院司祭）

場所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院
（黙想の家）

会費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み・・・*黙想会の3か月前より申込みを受付します

FAX、メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）



講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:15~20:45≫

12月13日
2014年 2月14日
3月7日

生ける神との出会いを探して

— 靈性神学入門講座 / キリスト教入門講座 —

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30~12:00≫ 夜のクラス ≪19:30~21:00≫

14	11月22日	「教会：キリストに呼び集められた人々の集まり」(2)
15	12月6日	「キリストと共に歩む道」(1)
16	12月20日	「キリストと共に歩む道」(2)
17	2014年 1月10日	「キリストと共に歩む道」(3)
18	1月24日	「主の祈り」
19	2月7日	「キリスト者が大切にしている事」
20	2月21日	「秘跡」(1)
21	3月14日	「秘跡」(2)

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

2013年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【聖書深読黙想会】

- 1日黙想 (午前10時～午後4時)

11月30日(土) 九里彰神父

- 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

12月18日(水) クリスマスを迎える心 今泉健神父

- 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

12月14日(土)～12月15日(日) 松田浩一神父

人間となった神の子への信仰

奉獻生活者の黙想 (午後5時～午前9時)

12月27日(金)～1月5日(日) 松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日(火)～12月25日(水) [講話なし、各食事つき]



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 , Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

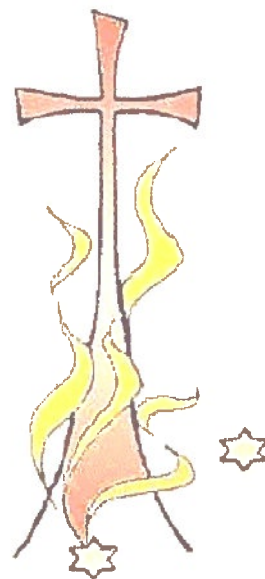
【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| ① | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ② | | 2月8日(金)～9日(土) |
| ③ | | 3月8日(金)～9日(土) |
| ④ | | 4月12日(金)～13日(土) |
| ⑤ | | 7月12日(金)～13日(土) |
| ⑥ | | 9月6日(金)～7日(土) |
| ⑦ | | 10月11日(金)～12日(土) |
| ⑧ | | 11月22日(金)～23日(土) |
| ⑨ | | 12月6日(金)～7日(土) |
| ⑩ | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ⑪ | | 2月21日(金)～22日(土) ☆ |
| ⑫ | | 3月28日(金)～29日(土) |
- (毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 5,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

☆霊性センター

カルメルの霊性「祈り」を知るために。

どなたでも気軽にご参加下さい

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話（カルメル会司祭）

15:30～ミサ（賛歌ラテン語）

☆土曜フレックスタイム静修

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき、

霊的にだけではなく、心身共にリフレッシュ出来る時

間として 御利用下さい。

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読、短い講和

14:30～ベネディクション、聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です

カルメル会三馬修道院 三上和久神父



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

祈り監修 カルメル修道会

受洗やクリスマスのプレゼントに最適

祈りと記念の手帖



わたしと神、わたしと大切な人々との出会いを記し、日々祈り、記念するための永年手帖

—推薦の言葉— Br.田中直 (聖パウロ修道会)

祈りによってさまざまな垣根が取り払われ、天と地が結びつき、人と人とが支え合うことができます。この手帖によって祈りの輪が広がっていくことを願っています。



* Br.田中は、日々の出会いを記念した祈りを実践していらっしゃいます。

〔収録内容〕

- 九里彰「記念し、祈る」
- 曜日のないダイアリー：誕生日、結婚記念日、受洗日、命日などを自由に記入できます
- 年ごとの記録：10周年、金祝などの覚えに役立ちます
- 絵画（カラー）と解説：祈りに向かう心、空間をつくるために
- 祈りと祈りのヒント（カルメル修道会監修）：主の祈り、聖人たちの祈り、年始・年末の祈り（高橋重幸・晴佐久昌英）や「祈りの小道」、聖句、詩などを豊富に収録



オリエンズ宗教研究所 編

ISBN 978-4-87232-085-5 C0016

A5判・200頁・本体価格1600円+税

全国のキリスト教書店、Amazon、オリエンズ宗教研究所HPをご利用ください。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
CWC (キリスト者婦人の集い)
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2013年予定

N 4 11/25 (月) -12/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム

2014年予定

K1 1/25 (土) -1/31 (金) 東京・小金井・聖霊会
M1 2/9 (日) -2/15 (金) 宝塚売布・女子ご受難会
N1 2/24 (月) -3/2 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム
K2 3/22 (土) -3/28 (金) 東京・小金井・聖霊会
S1 3/30 (日) -4/5 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネデイクト会
N2 4/30 (水) -5/6 (火) 滋賀唐崎・ノートルダム
K3 6/14 (土) -6/20 (金) 東京・小金井・聖霊会
T1 7/25 (金) -7/31 (木) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
M2 9/9 (火) -9/15 (月) 宝塚売布・女子ご受難会
K4 9/27 (土) -10/3 (金) 東京・小金井・聖霊会
S2 10/5 (日) -10/11 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネデイクト会

イエス様に祈りを学ぶ

真命山の靈性



祈りの集い（午前10時～午後3時）
年間の一般のテーマ： イエス様に祈りを学ぶ

自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり

- 1月10日 ナザレの聖家族の生活における祈りの重要性
- 2月14日 イエスの生涯における祈り
- 3月14日 死を前にしたイエスの祈り
- 4月11日 最後の晩餐におけるイエスの祈り
- 5月9日 イエス・キリストのメシアとしての喜びの賛歌
- 6月13日 いやしの奇跡とかかわるイエスの祈り
- 7月11日 主よ、私たちに祈りを教えてください！
- 8月 休み
- 9月12日 イエスの「大祭司の祈り」（ヨハネ17）
- 10月10日 神との関係における沈黙の大切さ
- 11月14日 イエスと神殿（ルカ2,46 ヨハネ2,21）
- 12月12日 神の「幕屋」であるイエス（ヨハネ1,14）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父
（真命山院長）
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・靈性交流センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。
2013年度のテーマ:
超越理解と理性の自己発見 — I 古代と中世
「中世：哲学・神学・神秘思想」(9世紀～15世紀)
[盛期スコラ学]
11/30,12/07,12/21,01/11

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kulturlハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月13日は休み。8月27日は Kulturlハイム 聖堂
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日は休み。
・水曜日 18時～18時30分 上智大学内 Kulturlハイム1階右、テレジア小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み
・「通う霊操」8月24日(土)～9月1日(日)18時～20時45分 上智大学内 Kulturlハイム 聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
12月7日
2014年1月11日、2月8日、3月1日
・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分～16時50分 上智大学内 Kulturlハイム1階右、小聖堂

●黙想会

[関東] 1泊6,600/6,800円程度。
2014年
03月08日(土):10時～9日(日)14時(上石神井)
[関西]

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分
・木曜日 18時～20時30分
上智大学内 Kulturlハイム1階左の部屋。但し祝日、5月2日、8月全体、12月26日、30日、1月2日は休み
3回坐り、間に講話

●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。
11月1日(金)20時30分～11月4日(月)13時

●アガベ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室
2014年1月25日(土)

●クリスマス

クリスマス会
12月14日(土)16時～20時30分。岐部ホール4階、404(予定)。要申し込み。

クリスマスのミサ

12月23日(月)14時～上智大学内 Kulturlハイム 聖堂 (80人限定)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2013年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 12/06 恵みとゆるし— 神の憐れみを受ける
12/13 愛の心— キリスト教の本質
12/14 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4階404。要申し込み)
12/20 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う
12/23 ◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内クトウルハイム2階、80人限定)
12/27,1/3〇休み
1/10
希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む
1/17
霊の動き— 福音による生き方
1/24
秘跡と教会生活— 毎日を養う信仰
1/31
神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方
2/07
結婚と独身— 愛の道
2/14 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている
2/28
人間の苦悩— 悪とは何のためか



リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2013年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- [日常生活]
12/03 家庭と独身生活— 与えられた招きの発見
12/14 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分パーティ、岐部ホール4F、要申し込み)
12/17 仕事と祝い— 能力の活性化と人生の実り
12/23 ◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内クトウルハイム2F、80人限定)
01/07 困難と苦しみ— 謙遜な自己奉獻と神への信頼

- [信仰の実現]
1/21 教会生活とミサ— 「キリストの体」の神秘
2/04 秘跡の恵み— たえざる刷新と神のいのちの深まり
2/18 祈りの本質と靈的読書— キリストとの心の交流
3/04 創造的靈性— 活動における観想
3/08-9 ●黙想会(上石神井)
3/18 「聖徒の交わり」— 信仰の内に支え合う

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

1年の終わりの静修日

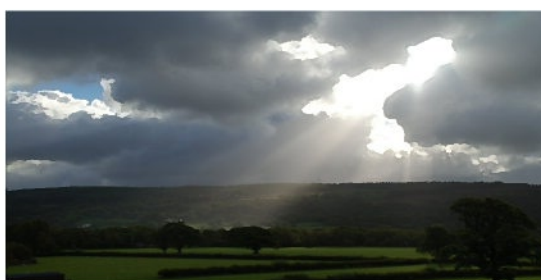
2013年12月28日（土曜日）

信仰年が終わった2013年の年末

1年の振り返りと新しい年を迎えるにあたり

神の慈しみへの希望と信頼を深めるために

師走のひと時を静けさのうちに過ごしてみませんか



—プログラム—

- ◆ 2:00 沈黙の祈り
- ◆ 2:30 ~ 3:30 講話 伊従信子
- ◆ 3:30 ~ 4:00 沈黙の祈り
- ◆ 4:00 ~ 5時半ごろまで お茶・感謝の祈り・マリア賛歌

場所 ノートルダム・ド・ヴィ 参加費 200円

お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35
TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254
e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

尚、通常の祈りの集いは 2013年12月14日（土）です。

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

- 「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

12月14日 十字架の聖ヨハネ
「飼い葉おけに置かれた神は
そこで涙を流して 泣いていた、
…人間の涙は 神のものとなり
よろこび(歓喜)は 人のものとなった」
1月25日 新しい年に、慈しみの愛に希望する

講話 伊従 信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail notredamcdevic.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>

カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2014年 4月29日(火)～ 5月7日(水)
- ② 8月14日(木)～ 8月22日(金)
- ③ 10月25日(土)～ 11月2日(日)
- ④ 12月27日(土)～ 2015年1月4日(日)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2014年 2月7日(金)～ 2月9日(日)
- ② 2月28日(金)～ 3月2日(日)
- ③ 3月21日(金)～ 3月23日(日)
- ④ 6月20日(金)～ 6月22日(日)
- ⑤ 7月18日(金)～ 7月20日(日)
- ⑥ 9月26日(金)～ 9月28日(日)
- ⑦ 11月28日(金)～ 11月30日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2014年 5月26日(月)～ 6月3日(火) 藤原 直達 師 (大阪教区)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
自己を知る *1泊2日 ×2＝ 合計4泊	2014年 1/11(土)9:30- 1/12(日)17:00 1/18(土)9:30- 1/19(日)17:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院	若山美知子※
入門C	2/2(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
サダナI	2/8(金)17:30- 2/11(火)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山市)	若山美知子※
入門A	2/8(金)17:30- 2/11(火)16:00	Fr ラフオント	広島市・西日本霊性センター(長束黙想の家) 申込み:西日本霊性センター「こもれび」 Sr 田中 Tel 082-239-0034/Fax239-0036	
日帰り	3/2(日) 9:30-17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
サダナII	3/19(水)17:30- 3/23(月)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山市)	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子

Tel & Fax : 042-325-7554

(注) 日帰り＝サダナIを終えた方

*サダナI

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

*サダナII

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。



CWC (キリスト者婦人の集い)

カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』

場所：真生会館 10:30～12:00

12月12日(木) 『完徳の道』 第40～第41章

2月18日(火) 最終回：『完徳の道』 第42章 + ミサ

東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル

TEL：03-3351-7121 (受付代表)

<http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/>



九里彰神父 (カルメル会日本管区長)

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて

— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール 14:00～16:00

12月のみマリア聖堂 (ミサ有り)

12月11日(水) 『靈魂の城』 第6の住居・第1章

2月20日(木) 『靈魂の城』 第6の住居・第2章

アピラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

*参加費無料 (献金歓迎)

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

カルメル会出版物のご案内



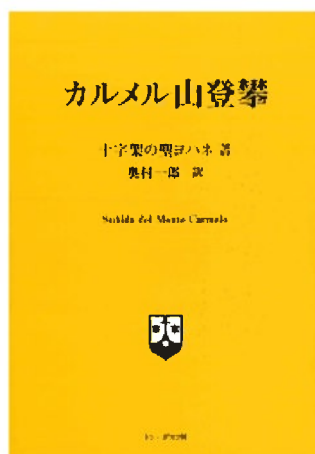
「神のさすらい人」
アビラの聖テレサ
マルセル・オクレール著
福岡カルメル会訳



「創立史」
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」
十字架の聖ヨハネ著
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

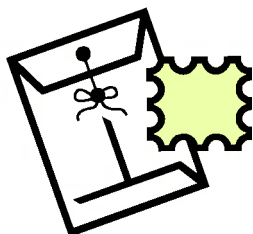
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



来年(2014年)1月から12月までの『霊性センターニュース』
年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

年間購読の場合の献金は、2500円程度をお願い致します。
これには11回分の送料(8月休刊)が含まれます。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号(但し8月号休刊を除きます)
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい

* 何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

今年は、どんな年であったろうか。苦しいこと、悲しいことが自分の周りにも、自分自身にもいろいろあったかもしれない。なぜこんなことが起こるのか、こんなことに何の意味があるのか、神はほんとうにいるのか。たびたび、神の慈しみ、導きを疑った時も、あったのではないだろうか。

だが、私たちの主は生きておられる。私たちの苦しみ、悲しみをことごとくご存じなのだ。「この世がすべて」「自分がすべて」と考えるこの世の者のようではなく、「この世を超える」神、「すべてのものを等しく愛される」神を信じ、神に希望を置くように、私たちは招かれている。この世の浮沈、名声も屈辱も、神の前にはともに無に等しい。塵あくたにすぎない。前2世紀、信仰を捨てるように求められたユダヤの若者は、復活の信仰に支えられ、こう答えている。

邪悪な者よ、あなたはこの世から我々の命を消し去ろうとしているが、世界の王は、律法のために死ぬ我々を、永遠の新しい命へとよみがえらせてくれるのだ。(2マカ7・9)

(P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「1月号」製本日 **12月21日(土)** 上野毛教会黙想の家 講話室 午後1時半頃から
12月製本日程と場所は特別になります。ご注意ください。

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171